



行事予定表		
3	水	筑波山登山(5歳児)
4	木	読み聞かせ(5歳児)/サロン
9	火	巡回相談/ピョピョひろば
11	木	カレーの日
16	火	町探検(牛久二小2年生来園)
17	水	おべんとうデー
18	木	サロン
19	金	秋遊び交流会・牛久二小給食試食会(5歳児)
20	土	運動会
23	火	つつじが丘・ふたばランド交流会(5歳児)
25	木	誕生会
26	金	避難訓練
29	月	交通安全教室(2歳児以上)



台風もひっきりなしにやって来て
梅雨のような日が続いた
豪雨と地震、災害に見舞われた夏だった
それでも、雨雲の間に、
中秋の名月も見られた
たわわに実った稲穂が
黄色いジュータンを
敷いたように美しかった
今では刈り入れが終わった田では
白サギがエサをねらって
身じろぎもせず立っている
十月はスカッと爽やかに
澄んだ空気、青い空
ゆったりと浮かぶ白い雲
すすきが揺れ
秋あかねが舞い、子どもが追う
美しく色を染める自然の中で
子ども達と思いい切り遊びたい

* 今月は、秋を五感で感じ、楽しむために、園外保育に沢山出かけようと計画してまいります。また、春に植えたサツマイモの収穫もとても楽しみです。

● 筑波山登山 (3日)



・ぞうグループ(5歳児)の子ども達が、筑波山のつつじが丘駐車場から自分の力で登ります。登山中には大変な箇所もありますが、登り切ることで、達成感を感じて欲しいものです。

● カレーの日 (11日)

・今月も園内がカレーの美味しい匂いに包まれ、食欲が増します。食欲の秋、子ども達の身体も心も大きく成長しています。

● 町探検 (16日)

・牛久二小の2年生が生活科の「町たんけん」の一つとして保育園に来園します。

● 牛久二小へ秋遊び交流会・給食試食会 (19日)

・5歳児が、小学校で2年生と一緒に秋の自然物を使い遊び、その後は5年生と一緒に給食を食べます。就学への期待が深まりますように。

● つつじが丘・ふたばランド交流会 (23日)

・つつじが丘保育園、ふたばランド保育園、当園の5歳児が集まり、つつじが丘保育園で運動会ごっこを行う中で、交流を深めていきます。

● 誕生会 (25日)

・最近の誕生会では、少しずつ友だちの誕生日をお祝いしようとする気持ちが見られるようになり、嬉しく思います。

● 交通安全教室 (29日)

・子ども達が学んでいる交通ルール。大人はどうでしょう？特に送迎の時に乱暴な運転も見られヒヤヒヤすることがあります。お互いに気を付けましょう。

※運動会は10月20日(土) 9時〜12時50分
場所・牛久運動公園メインアリーナ

* 詳細については後日お知らせを配布します。

食う・寝る・遊ぶ

・ ・ ・ ともに自由と活動を

十月八日は体育の日。例年、子ども達の体力低下と体の異変の記事がニュースになる。幼児教育の研修会の内容も、知育に関わるものや障害児の対応、食育(アレルギー)、等々ばかりで、「体育的活動」「遊び」は見られなくなった。子育ての基本は「食う・寝る・遊ぶ」「早寝・早起き・朝ごはん」である。知育についても、体力、健康と学力の相関関係が発表されて久しい。文科省が食育など言い出すとみんなそこになびいてしまうが、食育より、運動不足と肥満の方が問題である。最近では、子ども達が自由に、思い切り遊ぶ環境がなくなった。元来、子どもは活動的であって、何事にも興味・関心を持ち、意欲的である。できないことにもチャレンジしたがる。しかし、最近の子ども達は、新しいことにはチャレンジしたがらない傾向がある。僕はそれをやったことがないから出来ないと言ひ込みする。やったことがないことは出来ないかもしれないが、僕なら、きっと出来るようになる。とチャレンジするのが「ふたばっ子」である。

子どもが本来持っているチャレンジ精神が、どんどん劣化している。原因は、チャレンジすることをどんどん取り除き、禁止していることである。危ないから、ケガしたら大変だからと、何でも取り除き禁止してしまう。本園の園庭に三角小屋がある。遊具メーカーのものは、両面にスベリ止め用の横棒が付いて、登りやすく、かなり低い。これでは子ども達にとっては、おもしろくない。もっと高くして、片面はスベリやすくして、登るのが難しくなっている。子ども達は、登りにくい片面から登ろうとする。難しいから、出来ないから、チャレンジ魂を刺激する。危ないから取り除いては、子ども達の成長する環境を劣化させ、子ども達の心と体を劣化させる。▲ある幼稚園を見学に行った時、園庭を走って来る子ども達に、若い先生が「走っ

てはだめ」と制止した。私は、その先生に「最近、子ども達がケガをして、保護者からクレームがあったでしょう」と言った。「でも、平らな園庭で走れなければ、子ども達はどこも走れないよね。辛かったでしょう。でも、子ども達のために、頑張ってる」としか言えなかった。先生は涙ぐんでいた。幼稚園の先生が辞めたくなるのはこんな時だ。少し高いところがあれば、登りたくなるのが子どもだ。そこから飛び降りたくなるのが子どもだ。低いところから飛び降りて、どこかを打った、と言って、怒鳴り込んで来た人がいた。しかも、ケガひとつしてないのにである。ころんでころんで子どもはしっかり歩き、走れるようになる。できないことが出来るようになった時、恐怖心を克服しチャレンジできた時、できそうもないことに、何度もチャレンジして出来るようになった時、「僕でできる！私はすごい」と、自尊心を抱き、有能感を育て、意欲・忍耐力を心の中でふくらませる。▲こんなに活発に動いているのに、幼稚園では大きな事故や、ケガはほとんどない。骨折など大きなケガは、家庭で起きることの方が十倍以上である。数年に一度ぐらいは幼稚園で骨折することはある。それほど幼稚園では安全に注意しているが、あれもこれも禁止するようなことはしない。園長が「うちでは子ども達がケガをしたことがない」と自慢していた園に行つたところ、子どもは、ほとんど指示命令で動いていて、園庭のブランコも取り外していた。子どもは、自由にのびのびと活動させたい。ふたばは、心も体もたくましい子ども達が育つところだ。安全には十分に注意するが、子どもが自由に遊んで、ころんでケガをすることを恐れる人は他の園に行ったほうが良い。ふたばは、安全で、自由な子どもの楽園だ。

理事長 浅田 精利

